

# 令和3年産(2021年産)農畜産物に係る 十勝管内農協取扱高について〔概算〕

〔令和3年(2021年)12月24日  
十勝地区農業協同組合長会  
十勝農業協同組合連合会  
北海道十勝総合振興局〕

## 1 考え方

本集計は、令和3年産農畜産物に係る十勝管内23農業協同組合の取扱見込額について、農協ごとに試算した概算値の集計であり、商系取扱高（農協以外の一般商社等取扱分）は含んでいないことから、十勝管内農業産出額とは異なる。

取扱高には、直接支払交付金、生乳生産者補給金を含むが、産地交付金、農業共済金支払額は含まない。

## 2 令和3年の概要

**農協取扱高は、耕種部門、畜産部門双方が増収したことにより、  
3,735億円（前年比108%）**

### ◇耕種部門取扱高◇1,484億円（対前年比113%〔構成比39.7%〕）

本年は、6月～7月下旬にかけての高温小雨の影響が、地域やほ場によって、特に野菜やばれいしょ、豆類に見られたものの、小麦が豊作になるなど、農作物全般で収量を確保。

- 小麦は、6月～7月の多照の影響により、収量が平年を大きく上回り、前年比30%増。
- 豆類は、小豆、いんげんで高温小雨の影響があったものの、大豆は平年より収量が増加し、前年比8%増。
- ばれいしょは、高温小雨の影響で、特に収穫時期が早い品種に影響があったものの、その他の品種では収量が確保でき、生食用販売単価が増加したことなどから、前年比13%増。
- てんさいは、一部高温小雨の影響が見られたが、8月以降の気温と降雨等により収量が増加し、前年比14%増。
- 野菜は、高温小雨の影響を受け、大根、玉ねぎ、スイートコーンなどで収量が減少し、前年比3%減。

### ◇畜産部門取扱高◇2,251億円（対前年比105%〔構成比60.3%〕）

- 酪農は、乳価がやや減少したものの、1年を通して前年を上回る生乳生産を維持したことから前年比3%増。
- 肉用牛は、枝肉価格や素牛取引価格が堅調に推移したことから、前年比5%増。

## 3 取扱高集計結果

（単位：億円、%）

区分		令和3年(概算値)		令和2年(概算値)		対前年比	
		取扱高	構成比	取扱高	構成比	増減額	前年比
耕種	麦類	425	11.4	328	9.5	97	130
	雑穀・豆類	211	5.6	195	5.6	16	108
	ばれいしょ	303	8.1	269	7.8	34	113
	てんさい	314	8.4	276	8.0	38	114
	野菜	229	6.1	235	6.8	△6	97
	その他	2	0.1	5	0.1	△3	40
	小計	1,484	39.7	1,308	37.8	176	113
畜産	酪農	1,444	38.7	1,403	40.6	41	103
	生乳	1,262	33.8	1,221	35.3	41	103
	肉用牛	751	20.1	713	20.6	38	105
	豚・鶏	40	1.1	16	0.5	24	250
	その他	16	0.4	16	0.5	0	100
小計	2,251	60.3	2,148	62.2	103	105	
総合計		3,735	100.0	3,456	100.0	279	108

※ 取扱高は税抜き。